

前置詞中心 英語表現辭典

A Dictionary of English Phrasal Usage



三浦新市 共著
Natalie Reid



大修館書店

著者略歴

三浦新市 (みうら・しんいち)

東京文理科大学英文科卒業。サンフランシスコ州立大学大学院修了。英語学を専攻。現在創価大学文学部教授・慶應義塾大学名誉教授。

著書：『現代英文の構成と語法』（研究社），『構造言語学入門』（開文社），『構造言語学と英語学習』（開文社），『現代英語学辞典』（一般意味論項目執筆）（成美堂），『続・英語語法大事典』（共編著）（大修館書店），『英語語法大事典 第3集』（共編著）（大修館書店），『英語教育と英語学』（『英語の語法と文体』執筆）（大修館書店）

ナタリー・リード (Natalie Reid)

カリフォルニア州立大学（パークレー校）史学科卒業。サンフランシスコ州立大学大学院修了。外国語としての英語を専攻。前カリフォルニア州立大学 UNEX 講師。Leon Litwack のピューリッツァー賞受賞作品 *Been in the Storm So Long* (New York: Knopf, 1979) の language consultant を務める。現在カリフォルニア・イングリッシュ・コミュニケーションズ・インスティテュート所長。

著書：*America Grows Young* (Tokyo: Asahi Press, 1982)

前置詞中心 英語表現辞典 © S. Miura 1985
N. Reid

1985 年 12 月 15 日 初版発行 定価 7,500 円

著者 三浦新市
検印省略 ナタリー・リード
発行者 鈴木敏夫

A8802/39

前置詞中心—英語表現辞典
(英・日 6-2/A2248)

A 01910

は し が き

ある意味内容を英語で表現するさいに適切と思われる英語の語(句)を和英辞典で調べ、それを用いて文法的に正しい英文を書いたとしても、その英文が語法上容認されない場合もあるし、また文体上好ましくない場合もある。このような事態が起こるのは和英辞典に限られた情報しか記載されていないからである。もし現在の和英辞典にコミュニケーションの効果的な英文を作るのに必要な情報が記載されるようになれば、語法レベルを混同した文、冗漫な表現を用いた文、英米の語法のちがいを無視した文、古風なあるいは廃れかけている表現を用いた文はある程度避けられるであろう。

私たち編著者は和英辞典の不足部分を若干補う目的で本辞典を編さんしたが、これは私たちの計画の一部にすぎない。本辞典ではある語と共起する前置詞だけでなく、関連する冠詞、不定詞、節などの連語関係まで扱い、執筆にあたっては次の点を本辞典の特色とした。

1. 記載例文は諸分野のインフォーマントが目を通し、できるだけ頻度の高い、活用度の高いものにした。
2. 語法レベルを表示し、形式ばった語法で用いられる表現に対してはくだけた語法で用いられる表現を可能な限り示すように努めた。
3. 英米の語法のちがいを表示し、イギリス語法で用いられる表現に対してはアメリカ語法で用いられる表現を可能な限り示すように努めた。
4. 文体上好ましくない例文に対しては好ましい書きかえ表現を示した。

次に資料の収集に言及しておきたい。私たちは“Language changes constantly.”という考えに立って見出し語(句)に対する例文を作り、1で述べたようにそれを活用度の高いものにするために諸分野のインフォーマントにチェックを依頼した。したがって、記載例文は現実の語法事実を反映し

ものと言える。記載例文の中には現在まれにしか用いられないものもあるが、そのような例文には固で語法上の注記をするか、あるいは頻度の高い表現に書きかえるかのいずれかの処置をしている。なお、問題のある語法については語法に精通した各界のインフォーマントを通じて調査し、統計学的分析によって信頼できる記述を行ったつもりである。

本辞典が言語に関心のある数多くのインフォーマント（大学教授、弁護士、辞書編集者、雑誌編集者、報道記者、技術者、実業家など）の方々に負うところが大きいことは言うまでもない。とくに例文、語法、書きかえ表現などの全般にわたって原稿を読んでもらった Harold Reid (技術者), Charles E. Wood (弁護士), Thurston Womack (サンフランシスコ州立大学教授) の3氏に、私たちの問い合わせ事項に対して貴重な助言をしてくださった Elien Rosenfield (カリフォルニア州立大学 UNEX 教授), Leon Litwack (カリフォルニア州立大学教授), Edgar Widburg (南サンフランシスコ学区主事), Clay Swinburn (前カリフォルニア州立大学 UNEX 教授), Doroles Harris (辞書編集者) の諸氏に、また執筆その他のご援助をいただいた榎本常彌氏 (前福岡大学教授。同氏は発刊直前に他界された。心からご冥福を祈りたい) に心から謝意を表したい。また私たちにしばしば有益な情報をくださった James A. Horton, Lisette Wolk, Fred Korr, Alison Jennings, Charley Sledd, Norman L. Reid, Gloria Reid, Chizuko Waller, Robert Copeland, P. H. Collin, Dorothy Danielson, Betty Kirkpatrick, Michael Upshall, Douglas Stout, Sally Taylor, Harriet Glickman, Victoria A. Fromkin, Rose Forman, Charles Yoshii, 高木ヨシコ, 三浦富美子, 三浦 健の諸氏にも心から謝意を表したい。

最後に、長い間にわたって原稿のチェック、校正、索引の作成をしてくださった編集部の鶴沢敏明氏に心からお礼を申し上げたい。おそらく同氏のこのような協力がなかったら、本辞典は刊行の運びにならなかったろう。

1985年7月 編著者

使用上の手引き

1. 見出し

- (1) 主要語のアルファベット順に太字でかかげ、主要語に前置する動詞、前置詞(句)、冠詞などは、主要語の後にカンマ(,)を付して示した。

例. **abeyance, in**
ahead with (s.), go
adherent of (s.), an

- (2) 変化する要素は細字で示した。

例. **debate doing**
decide to do
edge one's way through
address oneself to (s.)

- (3) 交換可能な語(句)は / で、意味が変わる場合は [] で、省略可能な語(句)は () で示した。

例. **admission into/to**
demonstrate against [for]
all, once (and) for

- (4) 選択制限 (selection restriction) は、

(s.) (=物、事など)

(sby.) (=人)

で示し、目的語が2つ以上の場合は、A, B, Cで示した。

例. **advise A(sby.) of B(s.)**
advance A(s.) from B(s.) to C(s.)

2. 見出し語(句)の訳

- (1) 訳が2つ以上の場合はカンマ(,)で、意味範疇が大きく変わる場合はセミコロン(;)で区切って示した。

例. **attend to (s./sby.)** …に精を出す; (人)を世話する, (病人)

の手当てをする

- (2) 日本語の選択制限は () に入れて示した.

例. **access to** (*s./sby.*) (資料など)を閲覧できる権利: (場所)への出入り; (人)への面会

3. 用 例

該当する見出し語(句)の部分は斜体字で示し、すべての用例に訳を付した.

他の辞書、文献から引用した例文については、例文の後に、雑誌を除いて、略号で示した。引用文献の略号は次の通り。

AIU: Whitford, H. C. and R. J. Dixon. *Handbook of American Idioms and Idiomatic Usage*. New York: Regents Publishing Company, Inc., 1973.

ALD: *The Advanced Learner's Dictionary of Current English*. Tokyo: Kaitakusha, 1963.

CAU: Evans, Bergen and Cornelia Evans. *A Dictionary of Contemporary American Usage*. New York: Random House, 1957.

CD: *The Children's Dictionary*. Boston: Houghton Mifflin Company, 1979.

COD: *The Concise Oxford Dictionary of Current English*. London: Oxford University Press, 1982.

CULD: *Chambers Universal Learner's Dictionary*. Edinburgh: Chambers, 1980.

DI: Fowler, W. S. *Dictionary of Idioms*. London: Nelson, 1972.

EPI: Wood, F. T. *English Prepositional Idioms*. London: Macmillan, 1967.

HAD: *The Hamlyn All-Colour Dictionary*. London: Hamlyn, 1975.

HDCU: Morris, William and Mary Morris. *Harper Dictionary of Contemporary Usage*. New York: Harper & Row, Publishers, 1975.

HID: *The Holt Intermediate Dictionary of American English*. New York: Holt, Rinehart and Winston, Inc., 1966.

- LDCE* : *Longman Dictionary of Contemporary English*. Harlow and London : Longman Group, Ltd., 1978.
- LDEI* : *Longman Dictionary of English Idioms*. Harlow and London : Longman Group, Ltd., 1979.
- LDPV* : Courtney, Rosemary. *Longman Dictionary of Phrasal Verbs*. Harlow : Longman Group, Ltd., 1983.
- MGSR* : Hayakawa, S. I. (ed.) *Modern Guide to Synonyms and Related Words*. New York : Funk & Wagnalls, 1965.
- MSD* : *The Macmillan School Dictionary*. New York : Macmillan Publishing Co., Inc., 1974.
- OALD* : *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. Tokyo : Kaitakusha, 1974.
- ODCIE* : Cowie, A. P. and R. Mackin. *Oxford Dictionary of Current Idiomatic English Volume 1*. London : Oxford University Press, 1975.
- RHD* : *The Random House Dictionary of the English Language*. New York : Random House, 1966.
- RHDS* : *The Random House Dictionary of the English Language*. School Edition. New York. Random House, 1970.
- SD* : Neal, Eric. *A Sentence Dictionary*. London : Hulton Educational Publications, Ltd., 1965.
- Style* : Flesch, Rudolf. *The ABC of Style*. New York : Harper & Row, 1964.
- TBID* : *Thorndike-Barnhart Intermediate Dictionary*. Glenview, Ill.: Scott, Foresman and Company, 1971.
- Webster's International³* : *Webster's Third New International Dictionary of the English Language*. Springfield, Massachusetts : G. & C. Merriam Company, 1966.
- Crowell : Crowell, Jr., Thomas Lee. *A Glossary of Phrases with Prepositions*. Englewood Cliffs, N. J. : Prentice-Hall, Inc., 1960.
- Gleason : Gleason, H. A. *Linguistics and English Grammar*. New York : Holt, Rinehart and Winston, Inc., 1965.
- Heaton : Heaton, J. B. *Prepositions and Adverbial Particles*.

London: Longmans, 1965.

Makkai: Makkai, A. *Idiom Structure in English*. Janua Linguarum, Series Major, Nr. 48. The Hague: Mouton, 1972.

4. 図

適切で、コミュニケーションの効果的な英文表現ができるように次の点を注記した。

- a. 形式ばった語法，くだけた語法などの，語法レベル
- b. 例文の容認度
- c. 英米の語法のちがいがい。イギリス語法の表現にはアメリカ語法の表現をできるだけ示した。
- d. 文体上好ましくない例文には好ましい書きかえ表現を示した。

5. 語法レベルについて

標準英語は語法レベルから形式ばった語法に起こる英語とくだけた語法に起こる英語の2つに分類される。(もちろん、この両者の間にはっきりした境界線があるのではなく、互いに重複している。)

形式ばった語法は、主として話し言葉よりも書き言葉に用いられる。言いかえれば、学術的な専門的な書きもの(学術雑誌、実験報告書、ある種の教科書、学位論文、法律関係の文書、営業報告書、学術講演、説教など)や、ある種の文学的な書きものの中に見られる英語である。その言語の特徴は次のようなものと考えられる。

1. くだけた語法に用いられる文よりも一般に長く、複雑な構造で、平行構造、従属構造、文彩がしばしば用いられる。
2. 略語、縮約形、口語表現、俗語を避け、学問語を多く用いる。
3. 語法は保守的である。
4. 個人的な面を控え目にした語調である。
5. 読み手や主題に対する態度は荘重で厳肅である。

くだけた語法は、形式ばった語法と非標準英語の両極端の間に存在する。話し言葉として用いられる場合には日常、教育のある native speaker が用いる英語であり、書き言葉として用いる場合には教育のある native speaker の話し言葉に手加えられて整えられた英語である。多くの新聞、雑誌、小説、劇、商業通信文などはこのくだけた語法の英語で書かれ

る。書き言葉としてのくだけた語法の英語は日常用いられる話し言葉をそのまま紙上に再現したものから、細心の注意を払って書かれた英語に至るまで広範囲に及んでいる。したがって、この英語の言語的特徴は次の(A)、(B)の2つに大別して考えるほうがよいと思う。

(A) 日常の話し言葉をそのまま紙上に再現したような英語

1. 文は短く、構造が簡潔で、主語＋動詞＋補語の語順、等位構造がしばしば用いられ、不完全文やむだな言葉づかいもしばしば見られる。

2. 縮約形や短縮語が豊富に用いられ、形式ばった語法の英語に見られる関係代名詞が省略される。

3. 学問語は全般的に用いられないが、慣用語句、常とう語句がしばしば用いられる。時々俗語的表現が用いられることがある。

(B) 教育のある人たちの話し言葉が書き言葉として手が加えられ、整とんされた英語、

1. 形式ばった語法の英語に比べて文が長くなく、構造も複雑でない。また話し言葉をそのまま再現したようなくだけた語法の英語にありがちな散漫な断片的な構造でもない。

2. 伝統文法の厳しい規則も避けるが、極端に口語的な語法の支配も受けない。

3. 時々学問語が用いられるかもしれないが、慣用語句、(抽象的な語よりも)具体的な語が好まれる。

4. 語調には形式ばった語法の英語に見られる威厳や荘重さはないが、堅さがある。

5. 非常に口語的な英語にある親近感はないが、くだけたところがある。

6. 記号類

上記1. 見出しや2. 見出し語(句)の訳で触れた以外の用法は次の通り。

() 文法、語法上の注記を示す。

[] 文法的注記以外の注記を示す。

() 省略可能を示す。

[] 言い換えを示す。

/ 交換可能、並列を示す。

7. 索引

見出し語(句)を日本語から引ける和英索引を巻末に付した。

A

abandon A(s./sby.) to B(s./sby.) Aを棄ててBにさらす; AをBに明け渡す; 《oneselfを伴って》Bに身をまかす

▷He abandoned the child to starvation and frost. (彼は子供を捨てて飢えと寒さにさらした)

▷They abandoned the province to the rebel forces. (彼らは反乱軍にその地域を明け渡した)

▷Mary abandoned herself to grief. (メアリーは悲嘆に暮れた)

abeyance, in 中止して, 休止して; 未決定で

▷Work on the building will remain in abeyance as long as the court ruling against high-rises stays in effect. (裁判所の高層建築違法の裁定が効力をもっている限り, そのビル工事はひきつづき中止ということになる)

▷Let's hold the decision in abeyance until everyone has arrived. (みんなが着くまでその決定を保留しておきましょう)

国 形式ばった語法。くだけた語法では第2例は次のように表現される。Let's put off the decision until everyone has arrived.

abhorrence of (s.), **have an** …を忌み嫌う, …を嫌悪する

▷He has an abhorrence of violence. (彼は暴力をひどく嫌っている)

▷Many Americans have an abhorrence of the idea of eating raw fish. (生魚を食べ

べることを考えただけでもぞっとするアメリカ人が多い)

国 形式ばった語法。くだけた語法では can't stand / hate を用いるとよい。名詞形 abhorrence よりも形容詞形 abhorrent のほうが普通である。次項を参照。

abhorrent to (s./sby.) 《be に伴って》(人にとって) いやである; …と相容れない

▷The very idea of eating raw fish is abhorrent to many Americans. (生魚を食べることを考えるだけでもぞっとするアメリカ人が多い)

▷His behavior is abhorrent to the spirit of the law. (彼の行為は法律の精神に反する)

abide by (s.) (規則など)を守る, …に従う

▷You have to abide by the rule of the game. (君は競技のルールに従うべきだ)

▷Mary failed to abide by her promise. (メアリーは約束を守らなかった)

国 形式ばった語法。くだけた語法では上例の場合 follow the rule / keep her promise が用いられる。

ability for (s.) …の才能

▷He showed a special ability for music at a very early age. (彼は非常に若くして並はずれた音楽の才能を発揮した)

ability in (s.) …の分野での才能

▷Bob has outstanding ability in mathematics. (ボブはすばらしい数学の才能をもっている)

ability to do …する能力

▷Man is the only creature that has the *ability to speak*. (人間は話すことができる唯一の生き物だ)

▷The boy has the *ability to do anything* he wants to (do). (その少年はしたいことはなんでもできる)

㊦ have the ability to do は形式ばった文体。上例の場合 is able to do のほうが望ましい。

able to ((be に伴って)) …することができる

▷Harry was *able to* complete his work in one day. (ハリーは1日で仕事を終えることができた)

▷John was *able to* read and write at an early age. (ジョンは幼少にして読み書きができた)

㊦ able to do は人の場合に用い、This house is *able to be renovated*. のように、able to be + 過去分詞の形式は通例容認されない。しかし This house *can be renovated*. は容認されている。They are *able to renovate* this house. / They are *capable of renovating* this house. / They *can renovate* this house. はいずれも正用法である。

abominable to (s./sby.) ((be に伴って))

…にいやでたまらない、…にいまわしい

▷His bigotry was *abominable to* his colleagues. (彼の偏屈は同僚たちにはいやでたまらなかった)

▷The practice of human sacrifice is *abominable to* western religious thought. (人間を生けにえにする慣習は西欧の宗教思想にはいまわしいものだ)

abound in (s./sby.) …に富む、…がいっぱいである

▷South Africa *abounds in* diamonds and other gems. (南アフリカはダイヤモンドその他

の宝石が豊富である)

▷The rural area *abounded in* fertile soil. (いなかには肥沃な土壌が多かった)

㊦ 形式ばった語法。上例は Diamonds and other gems *abound in* South Africa. / Fertile soil *abounded in* the rural area. に置きかえ可能である。くだけた語法では South Africa *is rich in* diamonds and other gems. / The rural area *was rich in* fertile soil. のように be rich in が用いられる。

abound with (s./sby.) …がたくさんある、…がいっぱいいる

▷The Inland Sea *abounds with* islands. (瀬戸内海には島がたくさんある)

▷It was a sunny day, and the park *abounded with* children, dogs, and cyclists. (陽光がさんさんと注ぐ日だったので、公園は子供、犬、サイクリストでいっぱいだった)

㊦ 形式ばった語法。くだけた語法では be full of / be filled with が用いられる。第1例の場合 The Inland Sea *is full of* islands. のように be full of を用いるとよい。第2例の場合には... the park *was filled with* children, ... のように be filled with を用いるとよい。

above, from 天上から、頭上から、上空から

▷As they were climbing up the mountain, they heard a strange noise *from above*. (彼らが山を登っていたとき、頭上から奇妙な音が聞こえた)

▷Suddenly there was a blinding flash of light *from above*. (突然上空から目もくらむようなせん光がさした)

abreast of/with (s./sby.), **keep** …と並行

して進んでゆく、…に遅れないようにする
▷We have to read the newspapers and magazines to *keep abreast of* the times.

(私たちは時代遅れにならないように新聞、雑誌を読まなければならない)

▷She *kept abreast of* the other runners. (彼女は他のランナーに遅れないように走った)

㊦ keep abreast with よりも keep abreast of のほうが普通に用いられる。

absent from (s.) 《be に伴って》(学校、会議などを)欠席する; …を留守にする

▷Chris was *absent from* school with a cold. (クリスはかぜで学校を休んだ)

▷The runaway was *absent from* home for a week. (その家出人は家に1週間よりつかなかった)

absolve A (sby.) from B(s.) AをBから赦免する

㊦ The priest *absolved* him *from* his sins. (牧師は彼の罪を許した)

▷Years later, he was *absolved from* moral blame. (何年もあとで彼は道徳的責めを免除された)

㊦ 形式ばった語法。法律的、宗教的文脈に用いられることが多い。

absorbed in (s.) 《be に伴って》…に夢中になっている。…にふけっている

▷He appears to be *absorbed in* thought. (彼は物思いにふけっているように見える)

▷Peggy is very *absorbed in* her writing. (ベギーは書きものに非常に熱中している)

abstain from (s.) …を控える, …を慎む

▷He decided to *abstain from* eating dessert in order to lose weight. (彼は減量のためにデザートを食べるのを慎もうと決心した)

▷The Senator *abstained from* voting. (その上院議員は投票を控えた)

abstract, in the 抽象的に、純理論上

▷Ideas *in the abstract* tend to be appealing rather than plausible. (抽象的な着想はなるほどと思わせるというよりはむしろ心に訴える傾向がある)

しる心に訴える傾向がある)

▷He's a poor architect; his designs work only *in the abstract*. (彼は技量の劣った建築家だ。彼の設計は理論の上だけでしかうまくゆかないからだ)

abundance of (s./sby.), an 多くの

▷There is *an abundance of* artists in this part of town. (町のこの地区には芸術家が多い)

▷What *an abundance of* flowers! (まあたくさんの花だこと)

㊦ 形式ばった語法。くだけた語法では上例の場合 There are lots of artists.... / What a lot of flowers! が用いられる。Web.³ に “not commonly used of persons” と記述されているが、実際には上例のように時おり用いられる。

abundant in (s.) 《be に伴って》…に富む

▷The stream is *abundant in* trout. (この小川にはマスがたくさんいる)

▷This region is *abundant in* fruit and vegetables. (この地方は果物、野菜が豊富だ)

abuse of (s./sby.) …の虐待; …の乱用

▷His *abuse of* the children was intolerable to the community. (子供に対する彼の虐待はその地域社会には耐え難いものだった)

▷Many religious people consider autopsy to be an *abuse of* human dignity. (死体解剖が人間の尊厳を冒瀆するものと考える信心家が多い)

abut on/upon (s.) …に接する

▷His new lot *abuts on* a side street. (彼の新しい地所は横町に接している)

▷Their property *abuts on* the highway. (彼らの地所はハイウェイに接している)

㊦ 形式ばった語法というよりはむしろ専門的表現。すなわち、建築業で用いられる表現。くだけた語法では border on が用

いられる。

accede to (s.) …に応じる, …に同意する

▷They cajoled and pressured him until he *acceded to their wishes*. (彼らは彼が自分たちの希望をいれるまで彼をおだてたり, 圧力をかけたりした)

▷The king *acceded to the kidnappers' demands*. (王様は誘拐者たちの要求をのんだ)

図 形式ばった語法。くだけた語法では give in to が用いられる。

accent, speak with an 話す言葉になまりがある

▷She *speaks with a strong French accent*. (彼女の話す言葉には強いフランスなまりがある)

▷He always *speaks with an accent*. (彼の話す言葉にはいつもなまりがある)

accent on (s.), **put/place an** …にアクセントを置く; …を強調する

▷Put the *accent on the third syllable*. (第3音節にアクセントを置きなさい)

▷He *placed an accent on good taste*. (彼はよい趣味を強調した)

図 第2例では accent よりも emphasis のほうがひんばんに用いられる。

acceptable to (sby.) 《be に伴って》…にとって受け入れられる

▷His plan for the trip was *acceptable to the whole group*. (彼の旅行計画はグループ全体に受け入れられるものだった)

▷The candidate's views were not *acceptable to the voters*. (その候補者の見解は有権者には受け入れられるものではなかった)

acceptance of (s.) …を受けること

▷Everyone was delighted with his charming *acceptance of the gift*. (彼が大変快くその贈物を受け取ったことをみんなが喜んだ)

▷Her *acceptance of the job offer* shocked the family. (仕事をしてみないかという申し出を彼女が受け入れたので, 家族はひどくびっくりした)

access to (s./sby.) (資料など)を閲覧できる権利; (場所)への出入り; (人)への面会

▷Only a privileged few have *access to classified documents*. (特権を持つ僅かの人だけが機密文書を見ることができる)

▷Does he have easy *access to the palace*? (あの方は簡単に宮殿に入れるのですか)

▷Only his private secretary has *access to the President during lunch hour*. (昼食時大統領に面会できるのは秘書だけだ)

図 形式ばった語法。くだけた語法では上例の場合 Only a privileged few can see... / Can he visit [go to] the palace at any time [easily]? / Only his private secretary can see... が用いられる。

accessory to (s.) …の幫(?)助者; 《be に伴って》…の共犯[従犯]である

▷Was he an *accessory to the murder*? (彼はその殺人の幫(?)助者だったので、か)

▷The car was *accessory to the crime*. (自動車はその犯罪の共犯だった)

accident, by 偶然に

▷I had never seen him before; we met purely *by accident*. (以前は1度もあの方にお会いしたことはなかったのです。私たちは全く偶然に出会ったのです)

▷He left his umbrella at home *by accident*. (彼はふとしたことでかさを家に忘れてきた)

acclimated to (s.) 《become に伴って》…に慣れる

▷After living on the farm for five years, she finally became *acclimated to the long, hard winters*. (彼女は農場で5年間

暮したあと、ついに長い、厳しい冬に慣れた)

▷Are you *acclimated* to your new surroundings? (みなさんは新しい環境に順応していらっしゃいますか)

㊦ 形式ばった語法。acclimated はアメリカ語法で、acclimatized はイギリス語法で、それぞれ用いられる。くだけた語法では *used to* (s.) が用いられる。

accommodate oneself to (s.) …に順応する

▷We *accommodated* ourselves to the difficult circumstances facing us. (私たちは直面する窮境に順応した)

▷Have you been able to *accommodate* yourself to the tiny apartment? (小さなアパートに慣れましたか)

㊦ 形式ばった語法。くだけた語法では上例は次のように表現される。We adjusted to [got used to] the difficult circumstances facing us. / Have you been able to adjust to [got used to] the tiny apartment?

accommodate A (s./sby.) to B (s.) AをBに適応させる

▷He *accommodated* his walk to the slow step of his wife. (彼は妻のゆっくりした歩調に合わせて歩いた)

▷Will you ever *accommodate* to the new life styles? (君は新しい生活様式に順応するだろうか)

accommodate A (sby.) with B (s.) AにBを用だてる[供給する]

▷Mary *accommodated* her friend with the necessary money. (メアリーは友だちに必要な金を融通してあげた)

▷I'd like to *accommodate* you with a loan, but I don't have any money. (お金を貸してあげたいけど、お金がないんだ)

㊦ 形式ばった語法。くだけた語法では第

1例の場合、Mary gave her friend the necessary money. / Mary loaned [lent] her friend the necessary money. が用いられる。第2例の場合は、I'd like to give you a loan [help you out / loan you the money], but I don't have any money. / I wish I could lend you the money. / I wish I had the money to lend you. が用いられる。Aは必ずしも(sby.) だけではなく、(s.) も次のように起こりうる。We have *accommodated* the house with every modern convenience. (私たちは家にあらゆる近代設備をとりつけた) しかし、このような文脈では、アメリカ語法では *equipped* the house with every modern convenience が好まれる。

accompaniment of (s.), to the (楽器)の伴奏で

▷She sang to the *accompaniment* of a guitar. (彼女はギターの伴奏で歌った)

▷Wouldn't you prefer to perform to the *accompaniment* of a violin? (バイオリンの伴奏で演奏なさるほうが好きじゃないでしょうか)

accompaniment to (s.) …の付随物

▷The wine was a nice *accompaniment* to the dinner. (食事にいいワインがついていた)

accord, of one's own 自分から進んで

▷He decided to quit of his *own accord*. (彼は自分から進んで退職しようと決心した)

▷We left the country of our *own accord*. (私たちは自発的に国を去った)

accord with (s.) …と一致する

▷My opinions invariably *accord with* hers. (私の意見はいつも彼女の意見と一致する)

▷Their house definitely did not *accord with* his taste. (彼らの家は確かに彼の趣

味と一致しなかった)

㊦ 形式ばった語法。agree with と交換可能。agree with はくだけた語法にも用いられる。

accord with (s.), in 《(be に伴って)》…と一致している

▷We are not *in accord with* his choice.
(私たちは彼の好みに合わない)

▷The lawyers are *in accord with* the judge's ruling. (弁護士たちはその判事の裁定と一致している)

㊦ 形式ばった語法。くだけた語法では次のように agree with が用いられる。We do not *agree with* his choice. / The lawyers do not *agree with* the judge's ruling. なお, in accord with (s.) の否定形として, アメリカ語法では out of accord with (s.) を用いないで, not in accord with (s.) を用いる。

accordance with (s.), in …に従って

▷John acted *in accordance with* our wishes. (ジョンは私たちの要請に従って行動した)

▷*In accordance with* the state law, there is no smoking allowed in the public schools. (州法に従って, 公立学校での喫煙は禁止されている)

㊦ 形式ばった語法。法律, 規則, 規約の場合によく用いられる。話し言葉にも用いられるが, according to のほうが多く用いられる。

according to (s./sby.) …によれば; …に従って

▷*According to* the lawyer, the case will never go to court. (弁護士によると, この事件は絶対に裁判沙汰にならないそうだ)

▷He always behaved *according to* his mother's wishes. (彼はいつも母親の希望に従って行動した)

account, of no 《(be に伴って)》取るに足ら

ない

▷The data indicate that his theory is *of no account*. (資料は彼の学説が取るに足らないものであることを示している)

▷His threats are *of no account*; he's only bluffing. (彼のおどしなんて取るに足らない。見せかけにすぎないんだ)

㊦ 上例の of no account よりも worthless のほうが多く用いられる。

account, on 内金として; つけて

▷John gave me \$20 *on account*. (ジョンは内金として私に20ドルを渡した)

▷He always buys his groceries *on account*. (彼はいつもつけて食料雑貨類を買う)

account, on no どうしても…ない, 決して…しない

▷*On no account* will she apologize to that bigot. (彼女は決してあの偏屈者にあやまることはしないだろう)

▷I will *on no account* allow a son of mine to stay out after midnight. (どうあっても真夜中すぎ息子が外出していることは許せない)

account, on one's 人のために

▷Please don't get into an argument *on my account*. (どうか私のために議論に巻き込まないようにしてください)

▷*On her account* Ron stayed in Boston an extra week. (彼女のためにロンはさらに1週間ボストンに滞在した)

account, on one's own 自分のために; 自分の責任で, 独立して

▷I'm buying these books *on my own account*, not for the school library. (私はこれらの本を学校の図書館用ではなく, 自分のために買うのです)

▷Harriet moved to the country *on her own account*; that her former boyfriend lived nearby was merely coincidental.

(ハリエットは自分でいなかに移った。彼女の前のボーイフレンドが近くに住んでいるということは単なる偶然の一致にすぎなかった)

account, on that そういう理由で

▷I have a splitting headache, and it's on that account that I can't come to dinner. (ひどい頭痛がするんです。そんなわけで夕食にはお伺いできません)

困 この表現はアメリカ語法ではほとんど用いられていない。この代りに、次のように言う。I can't come to dinner on account of a splitting headache. / I have a splitting headache; because of that I can't come to dinner. / I have a splitting headache; that's why I can't come to dinner.

account, take (s.) into / take account of (s.) …を考慮する

▷The building contractor took the rising cost of materials into account before submitting his bid. / The building contractor took account of the rising cost of materials before submitting his bid. (建築請負業者は入札をする前に資材の上昇コストを勘定に入れた)

▷The personnel officer took the applicant's sincerity into account. / The personnel officer took account of the applicant's sincerity. (人事担当官は応募者の誠実さを考慮した)

account for (s./sby.) (金、物件などの使途または処置)の明細を明らかにする; (自分の責任として) …の理由を明らかにする; …を説明する

▷You'll have to account for all the money you spent during your travels in Europe. (君がヨーロッパ旅行中に使った全部の金の明細を明らかにしなければならないだろう)

▷We should account for the loss of time. (私たちはどうして時間をむだ使したか理由を明らかにしなければならない)

▷I can't account for Harvey. (ハービーの所在がわからない) (《行方不明の場合》)

account of (s.), on …のために

▷We had to postpone our picnic on account of the bad weather. (悪天候のために私たちはピクニックを延期しなければならない)

▷John missed three weeks of work on account of the flu. (ジョンは流感のために3週間欠勤した)

account to (sby.) …に説明する, …に弁明する

▷He will have to account to the police for his actions. (彼は警察に自分の行動を説明しなければならないだろう)

▷If your work isn't finished by noon tomorrow, you will have to account to the supervisor. (君の仕事が明日の正午までに終わらなければ、郡政執行官に説明しなければならないだろう)

困 アメリカ語法ではこのような文脈では answer to (sby.) のほうがひんばんに用いられる。

accountable for (s.) (《beに伴って》) …に関して責任がある

▷The guards are accountable for the security of the visiting heads of state. (護衛官は訪問中の国家元首の安全に関して責任がある)

▷She is accountable for the first five chapters of the book. (彼女はその本の最初の5章が責任分担当)

accountable to (sby.) (《beに伴って》) …に対して説明しなければならない; …に対して責任がある

▷She was tired of being accountable to her husband for every minute of her